第 15 回研究会 2023 年 10 月 9 日

コロナの影響でしばらくオンラインで実施していたスパルタンイングリッシュですが，ついに本来の「対面＋授業検討会」形で再開となりました。オンラインには遠方の先生方が参加することができたり，普段お話しできないような人と交流することができるなどメリットがあるのは事実ですが，やはり対面での研究会はライブ感というか，授業改善のために何とかしたいという熱というか,「肌で感じる雰囲気」があっていいなと感じました。さて，そんな熱い議論が交わされた第 15 回研究会の提案者は、岩手県立一関第一高等学校附属中学校の三浦京介先生です。三浦先生は弘前大学教育学部の卒業生で，大学生の時も，秋田大学の授業勉強会 COFS に仲間たちと車で行って，秋田大学の先生から後日「弘前から学生さんが来てくれましたよ」と連絡を受けてびっくりしたことがありました。今回も「秋田で発表するなら弘前でも頼むよ」という僕のお願いにも二つ返事で授業提供を快く引き受けてくださいました。そんな三浦先生の授業からは，たくさんの授業改善へのヒントと刺激をもらえる研究会になりました。青森県内の先生を中心に，山形県や茨城県まで全国から合計 12 名の参加がありました。また，今回は大学 1 年生の参加もありました。熱心な若い人たちの存在は頼もしい限りです。先生たちがどれだけの情熱を持って授業を行っているか感じもらえたと思います。

授業について

対象学年

中学 3 学年

内容

NEW CROWN English Series 3

Lesson 3 The Story of Sadako

Lesson 4 The World's Manga and Anime

Lesson 5 I Have a Dream

の 3 つの Lesson をまとめて包括的に指導する授業

授業者の三浦先生から

- ✓ 複数単元にまたがって指導する授業で，5 年目にして初めてのチャレンジ
- ✓ 教科書を開いてから身につけたい力を考える前に，その時々に学習指導要領のどの力をつけさせたいかというのを考えて，そろそろ「社会的な」「難しい内容」の英文を読みながら，自分の意見を述べることができるようになる力をつけさせたいと考えた時に，Lesson 3～5 が共通して社会的な内容だったので，これを包括して指導して，最終的には自分ができることを述べるという力をつけさせたいと考えた。
- ✓ それぞれのレッスン末にパフォーマンステストをしようとも考えたが，Lesson3 が「世界平和について」， Lesson 4 が「日本の文化と世界」， lesson 5 が「人権問題について」となっていたのを踏まえた時に，どの単元でも「自分ができること」は共通したものに落ち着くのではないかというビジョンが見えたので「さまざまな視点を学びながら自分ができること」というまとまりのレッスンを作るこ

とにした。

- ✓ 最後のパフォーマンス課題は「自分が最も興味のある社会問題を一つ取り上げて，現状や課題と絡めながら，自分かその解決に向かってできること」というテーマのプレゼンテーションにした。
- ✓ 全 23 時間
- ✓ 本時は 18 時間目でディスカッションとライティングを通して「実際に読み取ったものをさらに深める」時間である。
- ✓ 普段から，単元の中で・単元を通して生徒の資質・能力を高めることを意識して指導している。英語の力も大事であるが，生徒が題材を通して，どのように思考・判断しているのかを重視している。
- ✓ 生徒に「英語の力」とつけさせることと「思考力・判断力」を育てることを 50 分の授業の中でどう両立するかが現在の課題である。

帯活動　BINGO

1. あいさつ
2. Read & Repeat で発音の確認のあと，BINGO を実施
3. How many BINGO did you get?とお互いにビンゴの活を確認
4. パラレルトーク

浜島書店『Let's Enjoy BINGO』にある「BINGO でトラベル」＝BINO で隣の人に勝つと次の年に進めるルール，で Where are you now?という質問からスモールトークを展開する。この授業は 3 年生なので，仮定法を学習している。生徒は「If you were in ○○, what would you like to do?」を聞きあって，そのあとは自由に会話を展開させる活動である。BINGO は BINGO，スモールトークはスモールトークと切り離すのではなく，BINGO からスモールトークをつなげて行うように工夫している。

フロアからの意見・質問

（参加者）
BINGO の最終列は生徒に行ってほしい単語をリクエストさせていたのが効果的だと思った。ただ，受け身的に聞いているだけにならないアイディアだと思った。
（三浦先生）
1 年生の時は「リーチ！」「ビンゴ！」と声が出ていたが，学年が挙げるにつれて声が小さくなっていくことに問題意識を持った。どうすれば 3 年生でも声を出すか考えた時に，最後は言ってほしい単語をリ

クエストさせるという工夫をしてみた。

（参加者）
率直に中 3 ってこんなに声を出すのか？と驚いた。

（参加者）
ビンゴの流れを細かく教えてほしい
（三浦先生）
1. 授業でやるビンゴは授業前に埋めておく宿題
2. ビンゴに出てくる単語を 2 回ずつリピート
3. ビンゴは同じものが 4 回繰り返されていて，1 回目には英単語の意味も持っているので，単語の意味が分からない場合は 1 回目のページを見て意味を確認するように指導する
4. その語，B ラインから単語を読んでいって，6 週を目途に進める
5. Last one！で読んでほしい単語を言わせ，その中から 1 つ選んで言ってビンゴは終了
6. ペアでビンゴの数をペアで比べる

（参加者）
生徒はどんな単語をリクエストするのか？
（三浦先生）
この単語を言ってもらえればビンゴがそろうものなど。大きな声で言えば，僕の耳に届く可能性が高くなると指導している。

（参加者）
授業の規律がしっかりしていると感じた。
ビンゴは 1 年生から毎回やるのか？
（三浦先生）
1 年生から毎時間継続してやっている。
時間としては 5 分程度に収めるようにしている。

（参加者）
ビンゴを継続することの成果はどのようなものか？
（三浦先生）
音声を聞いて文字を認識するスピードが上がることだと感じている

（参加者）
書く力を身につけさせたいのであれば単語練習の方が，聞く力を身につけさせたいのであれば文レベルで聞いた方がいいのではないか，など生徒の実態によると思うが，ビンゴというアイディアがあることに驚いた。

（参加者）
パラレルトークは毎回同じ質問なのか？
（三浦先生）
ビンゴで勝つと「東京」⇒「大阪」のように場所が変わるので，話の内容はその場所によって変化する
また，学年によって使える文法も変わる。
2 年生は
I'm in ○○. What is ○○ famous for?
3 年生は
仮定法
のように変化させることができる

（丹藤先生から）
- 意図的にいろいろな仕掛けをしていることがいい
- 現在は，話すことが「発表」と「やりとり」に分かれていて，評価も「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」に分かれている。さらに評価の際には「知識・技能」でも初見のものを扱うことになっているように，子供が考えて話すことが求められている。Small Talk でいつも私が言っていることは，子ども同士は決まった表現の暗記で終わってしまう。なので，今回の場合も，生徒同士のペアワークのあとに，教師と生徒で何か揺さぶりをかけるような質問をしてはどうかと思う。帯で繰り返すことが大事だが，パターン化してしまうと機械的にはい終わったとしてしまう危険性がある。
- 授業規律や 3 年生なのに声が出ているとか，三浦先生の日ごろの指導の成果がしっかり現れていると思う。

（佐藤から）
- ビンゴの効果はたくさんあって，まずはベル着である。事前にビンゴを埋めてないとだめだとなると，だいたい家ではやってこないで，授業の前の休み時間に埋めなくてはいけないことのなり，そうなるととやかく言わなくても，生徒は自然とベル着していることになる。
- 僕にとって最大の魅力は「英語が得意でなくても活躍できるチャンスがある活動」である。ビンゴは運がすべてなので，学力に関係なく誰にでも平等に勝てるチャンスがある。
- ビンゴからスモールトーク西善につなげているところも素晴らしいと思った。僕も丹藤先生に「ビンゴ，はい，終わり。スモールトーク，はい，終わり。Next，・・・・」というモザイク授業ではなく「活動の有機的なつながりを大事にして授業を構成しなさい」と何度も指導していただいた。

（若有先生から）
- 精選された活動がしっかり関連付けられた授業構成になっている
- たくさんの人も挙げていたが，中 3 でもこんなに大きな声で発言しているのがすばらしいと思う。私の恩師の若林先生が
- 「学年が上がるにつれてどんどん声が小さくなりがちだが，理想の授業は生徒に自信がついて，学

年が上がるにつれて声が大きくなるはずなんだ」
と言っておられた。三浦先生の生徒はさんはみんな自信をもって英語を話している。

- 帯活動では効率性とスピード感が大事であるので，その点もうまくできていると思う。
- スモールトークの後に，毎回でなくても境地が内容を確認・チェックするようにすれば緊張感を持たせることができると思う
- ビンゴの際に音声は認識しているようだが，意味がちゃんと認識できているのかは慎重になる必要があると思う（特に単語が難しい場合）。

（丹藤先生）

- これだけ学習内容が増えているので，三浦先生のようにどんどんスモールトークで使わせることが大事である。
- ビンゴもスパイラルでやっているのがいい。音声と意味を結びつける働きかけがあればよいのだと思う。

展開１　Presentation Practice―Presentation 1

1. Presentation Practice
   プレゼンテーションの個人練習３分
2. Presentation 1
   ペアでスライドを使いながらプレゼンテーション
   生徒ができることについて話す
   ペアでアドバイスしあう

フロアからの意見・質問

（参加者）
Presentation Practice の３分間の時間で，ビデオからはどんな風に練習していたのか（実際に口に出して練習していたのかどうか）わからなかったので教えてほしい
（三浦先生）
7 割くらいの生徒は声に出して話していた。

（参加者）
英語が苦手な生徒は，一回目のプレゼンテーションで話せるものなのか？
（三浦先生）
話すこととは話していた。クリアの基準は「できることを一つしゃべる」なので，例えば「I can donate money.」と言えさえすればクリアになる。

（参加者）
Presentation Practice で「ちゃんと声を出して練習しましょう」と指示してやらせる方法もあると思うが，なぜそれをしなかったのか？
（三浦先生）
まだ，この段階では自信がない生徒が多いと判断したので，無理に声を出すことは強制しなかった。

（参加者）
最終的にどのくらいの分量をスピーチできればいいのか？
（三浦先生）
5 分程度
例えば B 評価の生徒は
Now we have many problems in the world. For example, Russia and Ukraine are doing war now.　So I have to do two things. First, I can donate money to UNICEF. This is because giving money is important for people in need. Second…

（参加者）
すごい活動的で，生徒の声も出ていて素晴らしいと思った。
このプレゼンの前にやっている，要点マッピングとは何か？
（三浦先生）
同僚の先生の実践を参考に，アドバイスをもらいながらやっている活動である。今回は 3 つのレッスンをまたいでいるので，大きなテーマは
「世界平和のために何ができるか」
「日本文化を外国に普及させるためにできることは何か」
「人権問題解決のためにできることは何か」
の 3 つである。
その中から，１つを選んで中心の大きなバルーンになって，そこから関連することを増やしていく。
まずは，自分の考え・現状から始め，教科書本文を読みながらそれに，少しずつバルーンを追加していくように進めている。

（参加者）
評価はどのようにしているのか？
（三浦先生）
パフォーマンステストにあげている 3 つの条件をすべて満たしていれば B。それから詳しさ・具体性があれば A とする。自分，ALT，T2 の 3 人に分けてテストを実施する。もし，評価に迷った場合は，動画をみて自分で最終決定する。

（参加者）
ルーブリックをあげているが、今までのルーブリックの活用状況や使用の有無、どのようなものを活用

していたかについてお聞きしたい
（三浦先生）
以前，ルーブリックは単元の初めにゴールを決める段階で用意されていて，さらに生徒と共有されている必要があると指導されたことがあった。しかし，単元のゴールを決めている段階でルーブリックまで作るというのは不安が大きすぎる。そのため，生徒と一緒にルーブリックを作ったりしたことがあった。今回の授業は「学習の手引き」という形で，学習内容も評価基準もルーブリックも一冊の冊子にまとめて事前配って実施してみた。こちらの方が，生徒は明確な目標に向かって頑張れるのだが，配っただけでは，ルーブリックに文言を理解できない生徒が多く，授業を進める中で具体的な分かってくるような印象である。だから最初にして示してしまうということの効果もどうかなと思っている。

（丹藤先生）
佐藤先生は，事前にルーブリックを示すことについてどう思うのか？

（佐藤）
難しい問題ではあるが，文字で示した＝生徒が見通しを持つではないと思う。よく，1 時間の授業でも「学習課題を黒板に書くように」という紋切り型一辺倒の指導をする人がいるが，これも同じで，黒板に書いてみんなで読み上げたから，生徒がその授業でやることを理解したということにはならないと思う。あくまでそれらはひとつの手段であり，外見にとらわれず，どんな形であろうと生徒がやるべきことを理解して授業を受けているかどうかが重要であり，状況に応じでいろいろなやり方があってもいいのではないかと思う。

（丹藤先生）
今の学習指導要領からすれば，はじめにルーブリックを示すというのは当然のこと。「こういう姿になるよ」というのを先生も生徒も目指すということである。バックワードの計画を立てることである。そのために，中間評価というのが入っている。最終ゴールに行くにあたって，中間評価をすることで，自分に何が足りないのか自己調整させるのである。理屈してはそういうことになるが，その自己調整をさせること，メタ認知をさせることというのはなかなか難しい。ただ，三浦先生の今回の授業では，事前にルーブリックを示すことが必要になると思う。なぜならば，このあと生徒同士でディスカッションをする際の基準とは何か，そこを明確にしないと生徒はそれぞれ勝手なことを言う。「絵がきれい」「声が大きい」とか。生徒同士でフィードバックできるか，についてその信頼性は検討が必要だと思う。ただ，現段階では不十分でも継続することでフィードバックの質を向上させていくことも重要であると思う。

（参加者）
実際，子どもたちはお互いにどんなアドバイスをしていたのか？
（三浦先生）
「絵がきれい」とか「笑顔が素敵」はさすがになかったが，「詳しく」述べるの「詳しく」が十分にとらえきれていない生徒が多かった。

（参加者）
生徒が話している，英語についてはどうか？言えてないことや間違った英語を使っているなどはなかったのか？
（三浦先生）
一番は伝われば何でもいいという覚悟を決めてやっている。なのでローカルなミスやエラーについては目をつぶる。ただ，I can donation.のような動詞のミスやエラーについては全体で共有するようにしている。

（参加者）
ルーブリックに，文法的な基準が一切ないが，本当に評価していないのか。実は裏で文法のミスやエラーを減点したりはしてないのか？
（三浦先生）
はい，本当に減点していない。

（丹藤先生）
文部科学省は，「知識・技能」，「思考力・判断力・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」は同時に評価するとしているが，日本の場合は「知識・技能」は他に先行すると思う。そうでないと語順が違ったり発音が間違っていると伝わらない。すべて「知識・技能」を身につけてからというわけではないが，6 割～7 割先行するというのが私の考えです。

（若有先生）
- 「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力」は純粋に切り離せるものではないと思う。「知識・技能」，だけでなく，中身とかちゃんと考えているかが必要なので「思考力・判断力・表現力」が入ってきたということ背景だと思う。また，キーワードだけ言っても何となくこういうことをいっているのかなと伝わることもあると思うが，でももっとちゃんと伝えたいという場面もあると思う。なので知識・技能から入る先生もいれば，アイディアから入る先生もいる，それはどっちがダメだということはないと思う。ただ，いずれにしてもバランスをとることが必要になると思う。
- また，A,B,C の評価基準については先生が決めてしまっていいが，S の基準については生徒同士で話し合って決めるというアイディアもいいと思う。
- 3 つの条件のうち「視覚的サポート」に関する条件は必須か？これは絶対的に必要な条件なのか？という点，1 つ目と 2 つ目の条件を必須にして，3 つ目をオプションにするというのもいいと思う。
- Presentation Practice の時に声を出している生徒がいなかったので，練習にするのではなくペアを変えながらプレゼンさせてアドバイスをもらうという方法もあると思う。プレゼンをさせるといろいろ調べても，結局相手に伝わってないということがある。まずは，ちゃんと使わるかどうかと確認させて，次に構成を考えるという段階的な指導もあるのではなかと思った。
- 即興に近い形で活動させること，三浦先生が高い要求をだして，それについてこさせることで生徒の力を引き出すというやり方はすばらしいと思う。また，模範となる生徒の映像をとっておいて，来年度，それを後輩の生徒の示すというのもいいと思う。

（佐藤）
よく教育実習の授業などを見ても「はい考えて⇒じゃあ言ってみて」という無理なフリをする授業を目にする。意外とスピーチを，どう段階的に指導して発表させるかを考える意味でも三浦先生の授業は非常に提案性のあるものである。

（丹藤先生）
マッピングについて，ただ書かせるのではなく，そのあと整理すること，取捨選択したり優先順位をつけたりする整理が大事であるが，どうか？

（三浦先生）
マッピングをある程度時間をかけてしたら，アウトライン作成を行う。その時に情報の生徒は取捨選択をしていると思う。さらに，教科書本文を扱った後にパワーポイントにする際にも情報の取捨選択が行われているのではないか。

展開 2　Discussion & Writing × 3―Presentation 2

1. Discussion & Writing
   3 人一組でテーマについて話し合い，ディスカッションを一回するごとに 3 分間ライティングすることで思考を整理する。ディスカッション⇒書いて⇒ディスカッション⇒書いて⇒ディスカッション⇒書いてという流れになる
2. Presentation 2
   ペアでスライドを使いながらプレゼンテーション

フロアからの意見・質問

（参加者）
三浦先生が日々しっかり指導しているからこその生徒のすがただと思った。今日はたくさん勉強になりました。ありがとうございました。

（参加者）
こういう場は初めてだったが，中学 3 年生でこんなに声が出ることに驚いた。

（参加者）
自分が受けていた，文法指導や教科書の訳をするばかりで，自分の意見を言い合う授業は初めて見た。自分の受けてきた授業のやり方にとらわれず，今風の授業に自分の考えをアップデートしていかなければいけないと思った。
質問ですが，生徒の活動を先生がチェックしないと，「どうせ見られないんだから適当にやろう」と思う生徒が出てきそうだが大丈夫か？

（三浦先生）
授業内でそういう時間を確保できればベストだが，最後にアドバイスシートを書かせて，それを集めて△マークがついているものは,「○日の○○時に, 特訓するよ」とお知らせを出して個別に対応している。

（参加者）
十分に考え抜かれた授業構成に感心した。また普段から授業改善のためにいろいろ考えているからこその授業だと感じ自分も真似したいと思う。ただ，言語の使用場面をはっきりさせるようにと指導されるが，今回の社会的な問題をスピーチをするという状況は何なのか，相手は誰なのか，目的・場面・状況を作り出す工夫が必要だと思う。
（三浦先生）
その通りだと思います。

（参加者）
3 単現をまたいで, 段階的に無理なく緻密に指導する授業がすごいと思った。机間指導をしているときに，生徒を支援したり，いいペアを取りあげたりするのが一般的かなと思うが，それをしなかったのは何か意図はあるのか？
（三浦先生）
50 分の授業中では，あえてその時間をとらず生徒の活動の時間を確保することに努めた。ただ，次の授業でいい発表をシェアしている。それは，単元をまとめてやっているからこそ，そういう時間的な余裕が生まれるだと思う。

（若有先生）
- 同じ相手にプレゼンをするのと，違う人にプレゼンをするのとは目的が違うことになる。1 回目と同じ人とプレゼンをするのであれば，どんな進歩があったかを確認してもらう。いろんな人に自分の考えを聞いてもらうというのであれば，相手は変えた方がよい。目的に応じて使い分けることが大事である。同じようなトピックで，考えたに多様な人とグループを組んでディスカッションをすれば深まりが生まれるのではないかと思います。
- 3 回ライティングさせることの必要性，つまり自分の考えを深めるという目的であれば，文章全文を書くのではなくメモ程度でもいいのではないかと思う。
- 「深い」ということがどういうことかは, 回数を繰り返すだけではなかなかとらえきれないと思う。具体例を出したり,「それは本当に実現できる？」「相手にニーズに合っているのか？」「継続可能なのか？」「潜在的な問題はないのか？」など観点を示すと「深い」とはどういうことかが分かりやすくなと思う。
- 日常的な会話に比べて，社会的な話題はなかなか「自分ごと」と捉えさせるのが難しい。本気させる，自分ごととして捉えるようなきっかけを作ることが重要となる。

（佐藤）
僕は長勝彦先生から，「何事にも基本がある，自分が教えられた授業を何の問題意識も持たず，繰り返すことはいけない，だからこういう授業研が大事で，こういう場で授業の基本を学ぶことが授業の上達には不可欠である」と教えてもらった。三浦先生の授業はそういう意味でも，しっかりとした基本に則っているので，あのような生徒のパフォーマンスにつながっているのだと思う。
また，授業は結果にコミット，どんないいことを口で言おうとも，それがいいかどうかは生徒の姿が示してくれると思っている。だから，今日の授業がどうだったかは，英語を使っているときの生徒の表情が物語っていると思う。

（丹藤先生）
- 社会的な問題など難しいものを扱うときには，選考知識を与えることが大事。
- まず，授業について 100 点の授業が誰にもできない。必ず何かが出てくる。今日もたくさん意見をもらったが，それを素直に受けてやれること／やれないこと，納得いくこと／納得できないことは見極めをすればいいと思う。授業を上手になるには，ちゃんとわかっている人から話を聞くことが大事。
- とにかく授業をしている三浦先生はキラキラしていて，今日はうれしくなった。
- 今後も信念をもって工夫しながら継続してほしい。授業を見てもらうのは，いろいろ言われるし嫌なこともあるのですが，それが力になるのでぜひ今後もがんばってほしいともいます。

おわりに
三浦先生の若さとエネルギーあふれる授業，そして明るく生き生きと英語の授業に参加する生徒の姿を見て，なんだかこちらが元気をもらったような研修会でした。思い返せば三浦くんは大学時代からとにかく前向きで，いろんな事に挑戦していました。大学時代も何かの研修に誘えば，よろこんでついてきましたし，車酔いするのに田名部高校まで授業見学に行ったり。でも，今日の授業を見て三浦くんはそういうのをがんばってやっているという感じではなかったと気が付きました。元野球部の三浦くんですので，イチロー選手が努力について以下のように言っています。

「報われるとは限らない。
もっと言えば、努力と感じている状態は、まずい。
その先に行けば、きっと人には努力に見える、でも本人にはそうじゃない。
そんな状態が作れれば、勝手に報われることがある、ということ。」

三浦くんは生徒のために自分の時間を使って授業の準備をするという自己犠牲的な感覚ではなく，ただただ，英語や英語の授業が好きで，うまくなりたいという気持ちなんだろうなと思います。そんな三浦先生だからこそ，丹藤先生がおっしゃるように授業をする姿があんなにもキラキラ輝いているのでしょう。みなさん，三浦先生の今後の活躍を期待しましょう！

（文責：佐藤　剛）